

主な性感染症一覧

疾病名	病原体	感染経路	潜伏期	症状	診断	治療	放置すると
梅毒	梅毒トレポネーマ	性行為を介する皮膚や粘膜の病変との直接接触 まれに傷口など	約3週間	感染した場所(性器とか口)に赤色の堅いしこりやただれができ、近くのリンパ節が腫れる(第Ⅰ期)その後3～12週間くらいの間に、発熱、全身倦怠感など全身症状とともに、皮膚にピンク色の発疹が現れ(第Ⅱ期)、さらに10～30年の間に心臓や血管、脳が冒される(第Ⅲ期)	病変部から病原体を確認、あるいは血液による抗体検査	抗生物質(ペニシリンやミノマイシン)	第Ⅰ期からⅡ期、Ⅲ期へと徐々に進展する
淋菌感染症	淋菌	性行為を介する粘膜との直接接触	2～7日	男性では排尿痛と膿尿、女性では症状が軽く気づかないことが多い	性器、尿道からの分泌物から分離培養あるいは核酸検査	抗生物質に対して耐性率が高くセフェム系注射が確実	徐々に広がって不妊の原因になることがある
クラミジア感染症	クラミジアトラコマティス	性行為を介する粘膜との直接接触	1～3週間	男性では排尿痛や尿道掻痒感、女性では症状が軽く無症状のことも多い	性器、尿道からの分泌物や尿からの抗原検出や核酸検査	抗生物質(マクロライド系、ニューキノロン系)	徐々に広がって不妊の原因になることがある
性器ヘルペス	ヘルペスウイルス	性行為を介する皮膚・粘膜の病変との直接接触	2～20日	性器の掻痒、不快感ののち、水疱、びらん	病変部からウイルス分離、抗原検出	抗ヘルペスウイルス薬	痛くて放置できるものではない。放置しても2～4週間で自然に治るが、再発する。
尖圭コンジローマ	ヒト乳頭腫ウイルス	性行為を介する皮膚・粘膜の病変との直接接触	3週間～3ヶ月	性器、肛門周辺などに鶏冠様の腫瘤	形態で可能	切除、レーザー、軟膏など	20～30%は3ヶ月以内に自然治癒、悪性転化あり
トリコモナス膣炎	膣トリコモナス原虫	尿道や性器からの分泌物との接触	1～数週間	女性では膣炎による帯下、男性では自覚症状がないことが多い	性器、尿道からの病原体検出	メトロニダゾール	再発、再燃する。放置しても治ることはない。
毛じらみ	ケジラミ	性行為、プール、サウナ、寝具	1～2週間	寄生部位(主に陰股部)の掻痒	虫体や卵の確認	剃毛、フェノトリンパウダーあるいはシャンプー	症状の継続あるいは悪化。放置しても治ることはない
カンジタ症	カンジタ属の真菌	性行為を介して伝播しうるが、必ずしも発症しない	1～2週間	男性では症状を呈すること少ない。女性では外陰部の掻痒と帯下	病変部からの孢子や仮性菌糸の検出	抗真菌剤の膣錠や軟膏	症状の継続、再発、再燃、放置しても治ることはない。
B型肝炎	B型肝炎ウイルス	血液や血液を含む液体との皮膚・粘膜を介した直接接触	約3ヶ月	発熱や全身倦怠感のあと、黄疸(1～2%で劇症肝炎)。無症候の場合もある	血液中の抗原、抗体、遺伝子の検出	予防にはワクチンが有効だが、特別な治療法はない	キャリア化して、慢性肝炎、肝硬変、さらに肝癌へと進展することがある
C型肝炎	C型肝炎ウイルス	血液や血液を含む液体との皮膚・粘膜を介した直接接触	2週間～6ヶ月	全身倦怠感、食欲不振、黄疸などが見られるが、症状は軽い	血液中の抗原、抗体、遺伝子の検出	抗ウイルス薬とインターフェロン	多くはキャリア化して、慢性肝炎、肝硬変、さらに肝癌へと進展することがある。
後天性免疫不全症候群(エイズ)	エイズウイルス	血液や体液との直接接触	3ヶ月／7～10年	感染成立の2～3週間後に発熱、頭痛などのかげ様症状が数日から10週間程度続き、その後数年～10年間ほどの無症候期に入る。放置すると、免疫不全が進行し種々の日和見感染症や悪性リンパ腫などを発症する	血液中の抗体、抗原、遺伝子の検出、ウイルス分離	抗HIV薬	慢性的に進行し、死に至る

出典：【財団法人】性の健康医学財団「性感染症予防啓発マニュアル」より抜粋(平成26年)

